

情報管理 アーカイブなし

Data Governance at Scale 大規模なデータガバナンス

受信トレイで特定のメールを検索するのは言うほど簡単ではありません。この検索を何千もの受信トレイにまたがって行うとなると、適切なツールがなければ事実上不可能になります。企業は、コンプライアンス、プライバシー、記録管理、電子情報開示、データクリーンアップ、そして最近ではAIやアナリティクスなど、増え続けるガバナンス要件に直面しています。これらの要件はすべて、電子メール、ファイル共有、SharePoint サイト、コラボレーションプラットフォームなどの非構造化データソース全体ですべての単語を検索する機能を必要とし、強力な検索アーキテクチャを必要とします。

一部の企業は、Microsoft 365 などの電子メールおよびコラボレーションプラットフォームのネイティブ機能に依存するようになりました。ただし、マスターインデックスがないと、検索では何千もの個別のインデックスを解析する必要があり、速度と信頼性が大幅に低下します。その結果、このようなアプローチは厳格な電子情報開示とコンプライアンスの要件を満たすことができないことが多く、最近のスペシャル・マスターレポート*では非準拠とみなされています。

今日の多くのソリューションではフルテキスト インデックスが維持されていないため、企業は規制、企業ポリシー、またはレコード定義の変更に基づいてデータを再分類するために、データ全体を再処理する必要があります。ただし、企業データの急激な増加を考えると、これはほとんど実現可能ではありません。

現代のアーカイブは解決策を提供しようとしています、ほとんどのオプションはすべてのデータのコピーを保存することに依存しています。これにより制御が強化されますが、追加のストレージコストが発生し、法的リスクが発生する可能性もあります。

ZL は、アーカイブの制御とインプレース管理の最小限のストレージを組み合わせています。ZLプラットフォームは、コンテンツとメタデータの両方をキャプチャするフルコンテキストインデックス作成を強化し、包括的で簡単に検索できるインデックスを作成します。これにより、データの再処理や複製を必要とせず、迅速な再分類とポリシー更新が可能になります。

* X1 Discovery事件において、特別裁判官は、Microsoft PurviewがFRCP 26 (g) に準拠していないと判断しました。これは、検索結果が信頼性不足かつ不完全であるためです。(2023年)
<https://www.x1.com/blog/special-master-determines-microsoft-purview-does-not-comply-with-frcp-26g-due-to-unreliable-and-incomplete-search-results/>

Solution Capabilities ソリューションの機能

インプレース管理

コピーを作成せずに、ソースでドキュメントのライフサイクル全体を管理します

企業全体

企業全体のデータの管理を一元化し、SharePoint などの部門レベルのソリューションによって作成されたデータサイロを排除します

防御可能な削除

ROTデータと高リスクデータを防御的にクリーンアップします

統一されたガバナンス

eDiscovery、記録管理、プライバシー、コンプライアンスを組み込んだガバナンス機能をシングルプラットフォームに統合します

データ取得時間の短縮

分析とAIに必要な関連データ取得時間を1000分の1に短縮します

A Better Way to Harness Unstructured Data

非構造化データを活用するより良い方法

ZLプラットフォームは、ドキュメントの本質をその場でスキャン、インデックス作成、抽出することで、企業全体の検索と情報管理を容易にし、ドキュメントのコピーを保存する必要性を排除します。データは、完全なドキュメント分析のためにインプレースジャーナリングまたはクロールによって取り込まれ、ライフサイクル管理のためにタグ付けと分類が行われます。ドキュメントは、安全なアーカイブコピーが必要な場合を除き、コピーを保存せずにインデックス化されます。ZLプラットフォームは、分析用のメタデータやコンテンツなど、元のドキュメントから必要な情報のみを保持するため、ストレージコストと法的責任が大幅に削減されます。

インデックスが作成されると、ドキュメントは仮想的に管理され、企業の保存期間と正当な削除に準拠したライフサイクル管理が可能になり、企業データ全体のシームレスな検索が可能になります。関連情報が特定されると、企業は必要に応じて元のドキュメントを簡単に取得して保存したり、AIリポジトリでそのインテリジェンスを活用したりすることができます。コピーを作成せずに企業データ全体を検索する機能は、eDiscoveryを効果的に「武器化」し、企業がAIとアナリティクスのパワーを最大限に活用できるようにします。

